

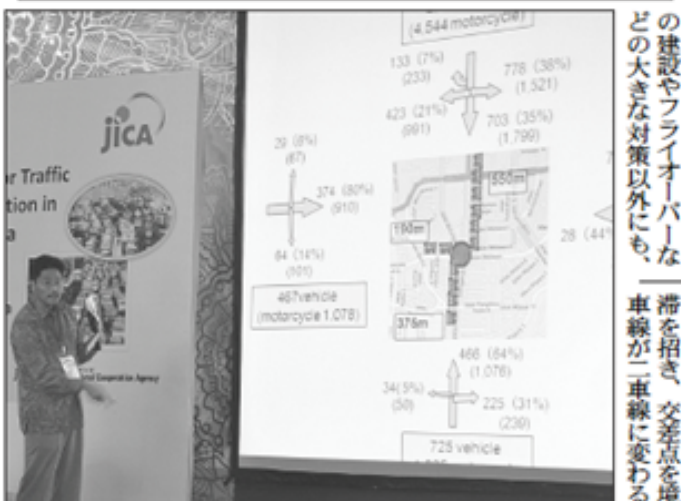
車線、信号の最適化など

「小さな工夫で軽減可能」

JICAが渋滞対策セミナー

オートバイの登録台数が年八%で増え続けるのに対し、道路の総延長の伸び率は〇・〇一%と渋滞解消に追い付いていないなど、年々悪化する首都圏の渋滞の早急な解決を目指すとして、国際協力機構（JICA）は二十二日、公共事業省ジャカルタ特別州と共催し、ホテル・ケンビンスキのホールで、首都圏の渋滞対策セミナーを開いた。

シニア大使館の牛尾滋公使、公共事業省高速道路局のジヨコ・ムリアント局長、ハサン・バスリ・ジャカルタ特別州知事補佐官（経済・行政問題担当）、同州交通局長の職員らが出席。JICA専門家として公共事業省に派遣されている池田裕二・道路政策アドバイザーや、GPSやカメラなどを用いた解析を行ったNTTデータ・ジャカルタ駐在員事務所の楠田哲也所長、広島に本社を置く総合建設コンサルタント会社である復建調査設計社の渡辺雅人主任エンジニアなどが講演した。



渋滞対策について講演する池田アドバイザー

の建設やフライオーバーなどの大きな対策以外にも、

既存の車線の見直しや信号機の設置などで、渋滞は大きく改善できる」と説明

セミナーでは南ジャカルタ・ムラワイや中央ジャカルタ・ハルモニの交差点を例に出し「ジャカルタでは信号機が設置されておらず、自由に左折できる車線が渋滞を招き、交差点を境に三車線が二車線に変わること

でも渋滞が発生している」と指摘。交差点を通過する車両の速度や時間の分析から問題点を抽出し、車線の改良や信号機の最適化、交差点付近で交通の円滑化を図るために緑石などを積んで作る「交通島」をより有効に活用することによって、交通渋滞の改善を図る提案を行った。また、渋滞対策として利用者のモラル向上も重要と指摘した。

池田アドバイザーは「この提案は上手くいけば、ムラワイの交通渋滞を完全になくすることができる」と自信を見せる。提案について、すでにジャカルタ特別州と話し合いが進められており、来年予算に組み込まれているという。「現在は四力所の提案を、今後三十力所の提案を考えて、交通渋滞を改善していきたい」と語った。

（高橋佳久 写真も）